

長井市といたしましては、若者に何を期待しているかということ、最終的にはまちなかに若者が多くいるまちを目指したいと思っております。この目標に近づける取組としてつながるのではないかなと思っているのは2つほどあります。

1つは、伝統文化、あるいは古い町並みと現代アートの融合ということです。これは実際、今、文教の杜で取組を始めているんですけども、丸大扇屋で今年は若者、現代アーティストの作品展示をいたしました。プラスその展示する作品の創作活動を長井市内で行っていただいたということで、また小桜館のほうにも中学生、高校生の作品の展示会を行ったりしています。こういう取組につきましては、市内の若者にとりましても地元と密着したり、または地元にもこういうところがあるんだなという見直し、それから参加する機運が高まるという効果があると思いますし、その結果だとは思いますが、今年の文教の杜にいらっしゃったお客様については、若者が非常に増えたという報告も受けております。こうした文化芸術、アートをまちなかに融合させる取組というのは、非常に効果がある手法だと考えております。

2つ目は、またけん玉ですけども、特にけん玉もどちらかというと若い世代に人気があるということで、来年は日本けん玉協会主催になりますけども、みちのくけん玉フェスタを長井市で開催するという計画を立てております。やがてはけん玉についてもワールドカップを長井市で開催したいと皆さん頑張っていると思いますので、ぜひそのようにいくように進めてまいりたいと思います。

このほかのアウトドアスポーツなどは特に若者が集まりやすいということで、株式会社モンベルさんと連携して、モンベルが深く関わる事業の一つにSEA TO SUMMITというイベントあるんですけども、これはパドル、バイク、ハイクということで、要は湖の上でカヌ

ーをこいだり、それから自転車で走ったり、最終的には山に登るといようなイベントなのですけども、この開催も長井市内辺りでできないかということで現在調整を進めているところでございます。

このように、全国の若い世代に対して長井市の知名度が上がる取組というものは非常にこれから必要になるのではないかなと思っております。そういったことを進めることによりまして、若者が集まるまちというものに向かっていきたいと考えているところでございます。

○浅野敏明議長 7番、内谷邦彦議員。

○7番 内谷邦彦議員 最後の質問、ちょっと飛ばしちゃいますけど、やっぱり併せて女性客もぜひ呼んでいただきたいと思えます。観光客の誘致を積極的に進め、市域経済の活性化が不可欠。また、女性の観光客を市へ誘客することが重要と思えますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。

以上で私の質問を終わります。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩といたします。再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

金子豊美議員の質問

○浅野敏明議長 順位3番、議席番号6番、金子豊美議員。

(6番金子豊美議員登壇)

○6番 金子豊美議員 昨日ですが、市民文化会館で、「ようこそ！！619125番目のスタインウェイピアノお披露目コンサート」が開催されました。その中で、それぞれの選定報告、それから弾き込み者所感、未来への活用など、様々な立場でいろいろご意見をお聞きしました。ピアノは生き物だというお話もお聞きしました。弾けば弾くほど成長するということもあります。私もこの場で一般質問させていただいているわけですが、回数を重ねるごとに成長しているのかなと思います、なかなか成長できない自分のがっかりしております。今回のピアノがどのように成長するか、皆様方と共に見守って、これから過ごしたいと思います。よろしく願いいたします。

初めに、今日、11月28日は太平洋記念日です。1520年のこの日、ポルトガルの航海者マゼランが、後にマゼラン海峡と命名される南米大陸南端の海峡を通過して太平洋に出た。天候がよく平和な日が続いたため、この海をパシフィックオーシャン、平和な、穏やかな大洋、太平洋と名づけたことから、11月28日は太平洋記念日となったとのことです。

南米大陸といえば、サッカー王国、ネイマール選手を中心としたブラジル、メッシ選手を中心としたアルゼンチンが有名です。現在、2022 FIFAワールドカップカタール大会が開催され、連日熱戦が繰り広げられています。中でも日本代表チームの活躍には、日本国民だけでなく各国から称賛されています。現在、対ドイツ戦、コスタリカ戦の1次リーグ2試合を終了し、2位。残るは強豪スペインとの1試合となりました。日本代表チームだけでなく、来たときよりきれいにをモットーに、応援、行動するサポーターが表彰されるなど、日本人の評価が上がっていることも、決勝トーナメント進出に向け、今後に期待したいと思っています。

反面、前回大会の開催国ロシアが、大会開催中にもかかわらずウクライナ侵攻を続け、ミサイル攻撃により電源、飲料水等のインフラ施設、一般アパートや病院等を爆撃、破壊し、多くの国民、子供たちが巻き添えになり、死亡、負傷しています。また、全土にわたり停電や断水が発生し、寒さの中、ウクライナ国民は苦しい生活を送っています。前回のワールドカップ開催国でもありながら、現在もウクライナ侵攻を続け、テロ国家とも呼ばれ、孤立しているロシア。同じ国だとは思えない不思議さを感じるのには私だけでしょうか。

ワールドカップカタール大会での日本チームの活躍、大会の成功を祈るとともに、戦争が早期に終了し、ウクライナ国民が安心して暮らせること、ワールドカップのスタジアムにウクライナチームとロシアチーム、そして両国のサポーターが一堂に会する機会が、やがてやってくることを願いながら、質問に入ります。項目は3つ、質問事項は5つです。

あやめ通り等街路樹の維持管理について。

県道勸進代舟場線からあやめ公園口を通り、あやめ公園までの市道あやめ公園線、通称あやめ通りの風景は、毎年四季折々の姿を現します。新緑の色増す季節には、緑豊かな景観があやめ公園を訪れる人々を出迎える。夏には緑深い景観が涼しさをもたらし、秋には黄色や茶色に色づいた紅葉、冬には除雪で積み上がった雪の壁に覆われます。市内でも一、二を争う景観となっております。

市道あやめ公園線については、以後、あやめ通りと呼ばさせていただきます。今回はあやめ通りをはじめ、市内街路樹の維持管理について質問をさせていただきます。

紅葉は美しいものの、落ち葉が車道、歩道、沿道の住宅や商店、施設等に落ち、積み重なっております。資料として配付させていただきました写真をご覧ください。11月13日頃のあやめ

公園通りの状況です。敷地周辺の落ち葉をビニール袋に回収し、業者が収集に来るのを待つ人もいますし、入り口付近の垣根に集めておく人もいます。道路では両脇の排水溝が埋まったり、中央に重なったりして、まるで真冬のわだちのようになっているところもあります。また、街路樹の枝が伸びてきて、剪定が必要ではないかと沿道の住民からの声もあります。

現在、当局では、落ち葉の回収作業、雪囲い、剪定作業等、業者に委託していると思いますが、沿道住民にとっても日々の落ち葉の回収等々、秋季の作業を行っています。しかしながら、沿道関係者で作業に従事できる方々の高齢化も進んでいるのが現状です。

あやめ通り等、市内街路樹周辺の維持管理については、自助・共助・公助のバランスと、沿道住民の理解と協力が必要だと思えます。最終的には、公助に頼るしかなくなるのか心配しております。また、空き家が出てきた場合の対応も含み、当局としては周辺の方々からのご協力がなければ維持できないと思えます。安全面も含め、心配する声がありますので、確認も含め、質問をさせていただきます。

初めに、あやめ通りは高校駅伝のコースにも入っておりますし、近くには自動車学校や保育園もあり、交通量の多い道路となっています。また、朝夕の散歩や自転車歩道を利用する方々も多くいます。車のスリップ事故や歩道での転倒など、不慮の事故が心配されます。現在、あやめ通りの落ち葉の回収や剪定作業はどのように行っているのか、また、安全対策についてどのように考えているのか、建設参事にお伺いします。

次に、あやめ通り以外にも市内には四ツ谷通りや成田の都市計画道路など、様々な種類の街路樹が植えられております。街路樹の維持管理について、業者に委託して維持管理をしているところもあると思えますが、年間の維持管理に

については、何といたっても地区の方、特に沿道の方々のご理解とご協力を得ながら行うこと、沿道の方々の落ち葉対策や植樹、剪定、伐採などに対する考え、意見交換など、コミュニケーションを深めながら取り組むことが必要と考えます。今後の取組について、市長の見解をお伺いします。

次に、ミニデイサービスの今後について質問をさせていただきます。

令和4年度版「保健事業のすがた 正しい姿勢で、楽しく歩こう！」によると、ミニデイサービス（高齢者の生きがいと健康づくり推進事業）は、長井市老人福祉計画に基づき、生涯にわたる健康づくり事業の一環として、住み慣れた地域の中で集いの場を設け、閉じ籠もりの予防と健康の維持を図り、地域の中で互いに支え合う体制をつくることを目的に、平成6年度から実施しております。今年度も継続してミニデイサービス事業を推進し、運動、栄養、お口の健康管理、認知症予防等の健康教育を実施します。

地域包括ケアシステムの推進に向け、高齢者の社会参加の一つであるミニデイサービスは、今後ますます必要性が高まることが予想されます。現活動を維持し、新たな課題を見いだしながら、活動を支援していきますと掲載されております。

令和3年度のミニデイサービス実施状況は、市内全体で31団体、会員数1,183人、開催日数が999回、延べ人数は2万6,385人、開所日は週1回となっております。事業が始まった平成6年に開所し、現在も活動している団体は、平野地区で上九野本地区を対象とした「すこやかクラブひらの」、伊佐沢地区で館久保地区を対象とした「館久保わかまつ会」の2団体です。翌平成7年に開所し、現在も活動を続けているのは、中央地区で幸町地区を対象とした幸友会、西根地区で大沖地区を対象とした大沖やすらぎ

会の2団体となっております。当初、開所して活動を行っていた団体もあったが、役員の後継者や協力員の不足等、様々な事情で活動を断念したとお聞きしております。

「保健事業のすがた」にもあったように、ミニデイサービスは、今後ますます必要性が高まることが予想されますとのこと、私もそのように感じております。必要なことと思います。これまでミニデイサービスについて、9月定例会で平 進介議員が、ミニデイサービスの会場となっている自治公民館の舗装整備について質問を行ったのをはじめ、幾人か質問をされております。これまで市長の答弁の中で、各コミュニティセンターという言葉が出てきましたので、そのことから考えてみたいと思います。

各コミュニティセンターの地域づくり計画の中で、健康福祉関係の部門に、高齢者等に関わる現状と課題や目標が取り上げられております。一部抜粋ですが、各地域づくり計画の中からミニデイサービスに関わる部分を拾い上げてみました。

中央地区では、独り暮らしや夫婦二人暮らしなど、高齢者のみで生活している世帯の増加、また日常生活の中で支援を必要とする高齢者の増加が見込まれ、高齢者が住み慣れた土地で安心して暮らせるまちづくりが求められている。

致芳地区では、後期高齢者の増加が進み、支援を必要とする高齢者の割合はさらに増加する見込みがある。また、致芳地区においても独り暮らしや夫婦二人暮らしなど高齢者のみで生活している世帯もさらに増加することが予想されることから、さらに体と心の健康が重要になってくる。そのためには、まずは外に出て、交流する機会を設けることが重要となる。また、これまで培ってきた知識や技は、地域にとって貴重な財産であり、後世に残したいものである。高齢者同士が集う場と若者が集う場を創出することで、いつまでも体と心の健康な致芳人を目

指したい。

また、西根地区では、現況と課題として、単身老々世帯が増え、生活に不便を感じる家庭の増加。生活に不自由や困難があっても、身近に相談できる相手がいない。日頃から声を掛け合うような親しい人間関係の希薄化。生活への不安定。施策として、支え合い事業。柱として高齢者への関心を高め、支え合い活動に取り組もう。

そして、平野地区では、地域の支えによる地域福祉の在り方について調査し、具体的な支援策を取り入れる活動を展開するとともに、要支援者や障がい者の支援について、情報と場の共有を図っていきます。地区公民館、現コミュニティセンターや自治公民館など、公共施設を活用して子供から高齢者まで幅広い住民の居場所をつくるため、遊ぶ、学ぶ、話す、食べるなどの元気に集える場所づくりを推進します。高齢者や子供たちのミニデイサービスの実施。

伊佐沢地区では、健全な体と豊かな心で住み良い伊佐沢をつくろう。健康なうちから始めて、老後を楽しく、介護を必要とせず自立した生活を送れるよう、早期の予防等の取組を進めていきます。生きがいを推進し、元気でいきいきと過ごせる場を提供していきます。サロンやミニデイの普及。サークル活動の推進。老人クラブの活性化。

最後になりますが、豊田地区では、地域で支え未来につなぐ元気な長寿社会づくり。現状と課題として、高齢化の進展に伴う支援対象者の増加、地区内交流の希薄化、買物難民や除雪困難世帯に対する支援。目標として、交流支援による長寿社会づくり、挨拶、声かけによる地域の輪づくり、支援体制の構築。具体的な活動の中でミニデイサービスの実施。ミニデイサービスへの食事提供。

6地区それぞれ特徴のある計画が立てられております。共通する部分も多くあります。いず

れの地区もミニデイサービスにつながる計画が含まれているように感じております。このような状況を踏まえ、質問をさせていただきます。

ミニデイサービスが始まった当初は、参加者が歩いて集まれる範囲とのことから、自治公民館を会場に開所した団体が多かったように思います。実施する会場には、施設の軽微な改修やテレビ等の備品など事業費のほかにも開設に必要な環境整備に予算が準備されていたことを思い出します。現在は、どちらの予算も減額されているとお聞きしております。課題は、役員の後継者、協力員の高齢化と減少等々が考えられます。働き方改革もあり、70歳代はもちろんですが、働ける限り働く方々も多くなっております。

このような状況で、これまでのような組織で活動するには、役員等への負担が増えるのではないかと心配されます。地域の現況に詳しい小さな拠点の中心、各コミュニティセンターの専門部などと市担当者の連携、情報の共有を図り、対象地区の特徴を生かした組織体制が大切と考えます。

例えば長井市社会福祉協議会で実施しているサロン、各地区コミュニティセンターで開催するデイサービス、自治公民館を会場とするミニデイサービス、個人宅やカフェなどを利用した居場所づくり、そして福祉バスや市営バスなど、交通手段の活用も含めて、住んでいる地域や高齢者の生活環境に合わせ、大・中・小それぞれの組織体制ができればスムーズな運営ができるのではないかと考えます。市長の見解をお伺いします。

次に、活動の中心になる人材については、各コミュニティセンターが持っている地域の情報収集、地区内細部にわたる広報、人材の把握などの能力を生かし、組織づくりや事業を展開することも一つの方法と考えますが、市長の見解をお伺いいたします。

最後の項目であります、長井マラソン大会を主としたタンザニア連合共和国との交流についてお伺いします。

まずは、長井市陸上競技場の改修工事とともに、第3種公認取得により、長井マラソン大会並びに山形県高校駅伝競走大会が無事に開催することができたこと、大変よかったと感じております。10月16日、青天の下、北は北海道から南は鹿児島指宿まで、フルマラソン603人、ハーフマラソン166人、計769人、10月3日、実行委員会開催時のエントリー者数であります。特別ゲストには、JICAタンザニア事務所広報大使のジュマ・イカンガー氏、吉本興業コトブキヤ陸上部の宇野けんたろう氏、タンザニア連合共和国の招待選手男女4人を迎え、新型コロナウイルス感染症感染対策ガイドラインに基づき実施された2022長井マラソン大会。前日には市内小学生や一般市民を対象として、大会ゲスト、招待選手によるランニングイベントも開催されました。

ながい山の港町マラソンコース（世界陸連・日本陸連公認コース）で開催された大会は、当局を中心に市内各スポーツ関係団体はじめ、長井商工会議所、長井市観光協会、長井市西置賜郡医師会、長井市交通安全協会、長井市地区長会、各商店会関係、日本・アルカディア・ネットワーク株式会社、山形鉄道株式会社など、またアドバイザーとして長井警察署、西置賜行政組合消防本部、山形県置賜総合支庁西置賜道路計画課により組織された実行委員会により実施されたもので、スポーツだけでなく観光面も含めた長井市挙げての一大事業の一つとなっております。

長井マラソン大会を主としたタンザニア連合共和国との交流について伺います。

これまで鈴木富美子議員もタンザニア連合共和国との交流など、国際交流の在り方について質問をされております。東京オリンピックをき

っかけに交流が始まり、今回は野球を通じての交流事業も市民の協力により開催されました。9月議会において教育長に質問させていただきましたが、青少年の人材育成のためにも国際交流を体験することは大切な事業と考えています。今回も国からの交付金を活用しての事業と説明を受けております。今後も長井マラソン大会を通じて国際交流を実施する場合、タンザニア連合共和国の招待選手が参加する経費など、財源が心配されます。隔年、周年大会に本市を訪れて交流するなど、様々な方法が考えられます。長井マラソン大会を主としたタンザニア連合共和国との交流について、今後どのように実施していくのか、市長の見解をお伺いします。

以上で壇上からの質問を終わります。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 金子豊美議員から大きく3点、私のほうからは4点についてお答えを申し上げます。

まず最初に、あやめ通りなど街路樹の維持管理についてということで、私には、あやめ通り以外にも市内には四ツ谷通り、あるいは成田の都市計画道路など、様々な種類の街路樹が植えられているが、その維持管理、業者に委託しているところもあるけれども、やはり地域の住民、特に沿線住民の落ち葉対策、植樹、剪定、伐採などに関する意見交換等、コミュニケーションを深め、理解と協力を得ながら取り組むことが必要と考えるがいかがかということでございます。

金子議員おっしゃるとおり、街路樹につきましては、長井の水と緑と花のまちを象徴するような景観、また環境、あわせて、交通安全及び防災の観点などで重要な役割を担っております。景観的には町並みに統一感を与え、沿線景観に彩り、季節感、潤いをもたらすことができるということで、私もできるだけ数多くの街路樹をまちなかに植えたいと思っておりますが、やっ

ぱり難しいのは街路樹の維持管理と、その街路樹がある住民の皆様の考え方だと思っております。

私が市長に就任させていただいてからでも、例えば記憶として非常に残念だったと思うのは、舟場のアカシアを危険だからということで、伐採してほしいという地元の皆様の声がありまして伐採しましたところ、お叱りをいろんなところから受けまして、非常に私としては、やはりそこに住んでおられる方々のご苦勞ということについて客観的に、自分は関係ないから、それよりはあったほうが絶対きれいだと思っている人が多いわけなので、その辺のギャップというのが難しいものだなと。

あとはですね、最近ですと、時庭の駅前通りに桜を植えておられたのですね。その桜がやはりその落ち葉も含め、管理が大変だと。あとは根が張り出して、歩道を歩きにくくしたりしているということで、全て伐採してくれと、強い地元からの要望があって、非常に残念だなと思ったところですよ。

ただ、地元の皆様からすれば、やはり負担になっても困るし、それを受け入れたときは皆さん、若い人たちがいいよって言ったのにもかかわらず、その方たちが高齢になれば、なかなか大変だということも、これもごもつともで、そういったところの課題があるんだと思っております。

この機能を改めて申し上げますと、環境面では緑陰を形成するといいますかね、緑で日陰ついでいいですかね、もできますし、歩く人にも非常にいいわけですね。夏の日差しを和らげ、周囲の気温上昇を抑えるということで、ヒートアイランド現象の緩和、またCO₂を吸収することで地球温暖化防止にも役立つと。あと、交通安全面では、車と歩行者の分離、並木効果による運転者の視線誘導、ヘッドライトがまぶしいわけですけども、それを防ぐ効果とか、あるい

は様々な交通安全の向上が図られると。さらに防災面では、火災のときの熱を吸収したり、低減による延焼防止、地震のときの家屋倒壊防止などのこういった効果もあるんですよ。

そういった意味では、水と緑と花のまち長井という観点から、昭和の時代から街路樹の整備が図られてきておりまして、道路景観や市内のランドスケープ上、大変有効なものとして、目指すのは本来はガーデンシティ、それから庭園都市という意味では、大変重要な要素と考えております。市民生活でも花や緑、環境的な面など、潤いを感じさせてくれるものと考えております。また、市外からの来訪者にも花木の咲き誇る状況、緑が生える状況、様子など、豊かな環境のまちという印象を与えるのではないかと考えております。

市では、樹木全体に日照や通風を確保して健全に育て、並木としての形や個々の樹形を整えるために枝の剪定を行っております。今年度は四ツ谷通りのイチヨウの枝を剪定したところです。定期的に支障となる枝の剪定を行い、景観や道路管理の実情を踏まえながら、今後も地区の方々のご意見、ご要望を賜りながら、いわゆる協働のまちづくり、地元の皆さんにもご協力いただいて、様々な建設課主管の協働のまちづくり支援事業を活用していただいたり、コミュニティセンターとの連携を検討するなど、街路樹の適切な維持管理に努めてまいりたいと考えておりますので、ぜひ議員のほうからも地元の皆様からのそういった声があったときは、私どもにもお伝えいただいて、何かいい方法を考えながら、ただ、新たに植樹できるところが難しくなっております、植樹しているところが、私はほかのまちより少ないなと思っております、今後の課題だなと思っております。

次に、2点目でございますけれども、ミニデイサービスの今後についてということで、こちらについても金子議員からご提言をいただきま

した。

ミニデイサービスの課題というのは、議員からおっしゃっていただいたように、もうスタートして30年近くたちますので、役員の後継者、あるいは協力員の高齢化ということ、あと減少等が考えられまして、ちょっと曲がり角に来ているのかなと思っております。

現在、議員からありましたように、31団体の1,200名弱ぐらいの方がご利用いただいているわけですが、65歳以上の方で、アバウトでもう1万人と、そういう時代に入りましたのでね、そういうことで考えますと、利用できる方はやっぱり8人か9人に1人、10人に1人じゃなくて、もうそこまで増えているのかなと思っております、したがって、やはり利用したくても利用できない方がいらっしゃいますので、これを介護予防という観点から、様々な市の福祉あんしん課はもちろんでございますけれども、長井市社会福祉協議会、あるいは様々な民間の社会福祉法人の皆様がいろんな取組をなさっていただいておりますが、やっぱりミニデイサービスは非常に優れておりますので、今後どうふうにこれを維持、発展させていくかということが非常に重要だと思っております。

さきの6月定例会、9月定例会においても議員からありましたように、地域における課題であると認識しております。特にここ二、三年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外出する機会が減ったことで、人とのつながりが希薄になる方が増えてきていると感じておりまして、これまでミニデイサービスなど気軽に参加していた居場所へ足が遠のいているということは事実でございます。市民の皆様が幸せに暮らせるよう、改めて地域における高齢者支援の取組の重要性を再認識しております。

議員のご質問にもあるとおり、ふれあいサロンやデイサービス、居場所づくり、そしてミニデイサービスなど、それぞれにおいて高齢者支

援に取り組んでおります。これらの取組は、参加できる対象などの運営方法に多少の違いがありますが、それぞれが協力し、つながることで、これまで以上に人や地域における助け合いが広がることを期待できます。

そのことにより絆が生まれ、地域力が向上し、安全・安心のまちにつながるものと考えておりますので、市民の皆様がいつでも誰でも利用できるような仕組みをやはりコミュニティセンター、また関係団体等と今後検討してまいりたいと思っております。特に今年からコミュニティセンターが法人化、皆様の努力でなったわけでございますけど、コミュニティセンターの法人化によりまして、各コミュニティセンターごとに、場合によっては送迎で使える大型バスというわけにはいかないでしょうけども、例えば今市営バスで使っているような14人乗りであったり、あともう少し上の25人乗りぐらいのマイクロバスなども所有することができるんですね。そういった車を持てば、いろいろな使い道がありまして、特にミニデイサービスなど今度は各自治公民館でできない地域ってあるわけですから、そこをやっぱりいろいろ民生委員・児童委員の方とか、あるいは社会福祉協議会、あと地域の皆様と相談して、コミュニティセンターに来てもらって開催するというやり方もあるわけですね。ですから、そんなことで、コミュニティセンターが取り組める業務が増えたのかなと思っております。

2点目の各コミュニティセンターが持っている地域の情報収集、地域内の細部にわたる広報、人材の把握等の能力を生かし、組織づくりや事業を展開することも一つの方法と考えるがということで、今、先に申し上げましたけれども、やはり地域の交流の場であるミニデイサービスにおける課題は、議員ご指摘のとおり、運営側の担い手育成でございます。地域やボランティア組織などによる協力員で運営する組織を主体

に取り組んでおりますけれども、高齢化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大による交流等を控えていることが要因で、人材の確保や育成が進んでない実態は理解しております。

このような地域の課題等について、やはりコミュニティセンターが重要な役割を担っているものと考えており、各コミュニティセンターが持つネットワークや人材を生かすことで解決できるものと期待しているところです。これらを踏まえて、今後はミニデイサービスや居場所づくりなどの高齢者支援を含め、移動手段等の支援についても先ほど述べたことと同様に、仕組みづくりと併せ地域や実施主体の特性を生かしながら、各コミュニティセンターが補完できる体制の整備を支援してまいりたいと考えております。また、社会福祉協議会等を加えて市民の皆様が継続的に参加できるような高齢者支援の取組を支援してまいりたいと考えております。

続きまして、最後でございますけれども、3点目の長井マラソン大会を主としたタンザニア連合共和国との交流についてということでございます。これは議員のほうからございました招待選手に係る参加経費等の財源が心配されると。隔年または周年大会とするなどの方法も考えられるが、今後どのように実施していくのかというようなご質問をいただきました。

これは議員がおっしゃるとおりでございます。実はやはりなかなか大変な課題だと思っております。10月16日に開催した長井マラソン2022については、2019年の大会以来、3年ぶりとなりまして、タンザニア連合共和国マラソン選手団をお招きしての大会となりました。ロンドン世界陸上で銅メダル、東京五輪で7位入賞の実力者、アルフォンス・フェリックス・シンブ選手を含む4名の選手に加えまして、JICAタンザニア事務所広報大使のジュマ・イカンガー氏など、総勢6名の選手団によって大会が大いに盛り上げたことは議員からあったとおり、

皆さんもご承知のとおりでございます。

世界トップレベルの走りを間近に見た小・中学生をはじめ、多くの来場者からは驚きと称賛、そして憧れの声が上がっております。また、マラソン大会の前日に開催されました長井アスリートクラブとタンザニア選手によるランニング交流会では、参加した子供たちとその家族から、言葉以上のコミュニケーションで走ることの楽しさを学ぶことができ、非常に貴重な体験になったという感想が寄せられております。9月議会で、土屋教育長からの答弁もございましたけれども、体験活動というのは子供に豊かな心と自信を育むだけではなく、その発信力は極めて大きく、地域の活力と希望になるということを改めて感じたイベントになったのではないかと思います。

議員ご指摘の事業に係る財源につきましては、現在はホストタウン交流事業に係る特別交付税措置によりまして、対象経費の2分の1の助成を受けて実施しております。今年10月、県を通じてスポーツ庁から入った情報によれば、ホストタウン交流事業に係る特別交付税措置は今年度をもって終了になるということでございますが、これに代わる措置として、日本スポーツ振興センターが実施するスポーツ振興くじ助成事業において、ホストタウン国際交流事業が新たに補助対象メニューとして追加されることとなったところでございます。

また、長井マラソン大会については、中心市街地活性化基本計画というのを私ども認定いただいているわけですが、これに位置づけられるソフト事業としては特別交付税、これは一般財源額の所要額の2分の1を受けることが可能なんです。そんなことも活用できると。タンザニアマラソン選手団の招待をはじめとする様々な国際交流事業は、市民のスポーツへの親しみや国際交流の機運醸成に効果があるだけではなく、子供たちに夢と希望を与え、地域の発信力

にもつながる重要な事業として位置づけられるものですから、これらの交付金を最大限に活用しながら、今後も継続的に実施していきたいと考えております。

なお、国際交流については、今提案をいただいているのは、あるタンザニアの都市との姉妹都市みたいな交流をしていったらいいんじゃないかということなどもタンザニア政府のほうからはいろいろ打診をいただいております。

あと、また私ども、来年はドイツのバートゼッキンゲン市との姉妹都市盟約40周年の節目の年になりまして、また交流を、来年は私どもお招きいただいて、再来年は、今度はドイツのゼッキンゲン市を長井市にご招待するという、これは併せてリヒテンシュタイン公国のほうも日本人の方たちが中心に、そんなに大きい都市ではないので、長井市クラスの都市とやっぱり友好都市、姉妹都市などを目指したらどうかということなどもございます。

中国双鴨山市は友好都市としての交流があるわけですが、スポーツ交流で各国のそういう人たちが行き来するのもいいんですが、やはり子供たち、中学生とか高校生とかですね、そういった子供たちに休みの期間を利用して、例えばお互いホームステイするような、そういったチャンスをつくっていききたい。そのために以前、心のまちづくり基金等々の委員会のほうに相談して、今、長井市の場合は基金のほうは公共施設整備などでなかなかふんだんな財源を見込めないということで、ぜひ一時的にそういったところの基金、今ほとんど利息がつかないので、今の段階で何とかお借りして、私どもも公共事業がある程度、一段落したらその部分をお返しするようなことで、有効に使っていききたいということで、相談などしているところでございます。

そういったことで、今後スポーツを含めて様々な機会を通じながら、あるいは様々な制度

を活用しながら国際交流、スポーツ交流などを進めてまいりたいと考えているところです。

○浅野敏明議長 小林克人建設参事。

○小林克人建設参事 私には、問1、あやめ通りの落ち葉の回収や剪定作業はどのように行っているのか、また安全対策についてどのように考えているのかにつきまして、お答えさせていただきます。

市道あやめ公園線の街路樹の剪定、管理につきましては、街路樹維持管理業務委託契約を締結いたしました事業者に行っているところでございます。高木で枝葉が生い茂っている樹木につきましては、春と秋に剪定を行いまして、低木及び高木の下部につきましては、交差点や個々の出入口におきまして自動車の出入りの際に見えにくいところが確認されたときには、その都度枝打ちを行っているところでございます。また、剪定作業の際、枯れ木や衰弱の状況を確認し、伐採等を行っているところでございます。

落ち葉や枯れ枝の回収につきましては、道路維持修繕等業務委託契約を締結いたしました業者に行っているところでございますが、量が多いため、沿道にお住まいの方や事業者の方にも落ち葉の収集や清掃にご協力をいただいているところでございます。特に建設課からの依頼ということではございませんが、自助・共助・公助の精神で、個人や地域の活動で落ち葉集めを実施していただきまして、建設課で回収処分を行っております。自動車の出入りの際、視界の邪魔になります枝を自主的に枝打ちいただいているところもございます。また、毎年沿道の皆様には街路樹の植栽ますや花壇への花の植栽、除草等にご協力をいただいております。市内企業、団体による街路樹周辺の植栽、ごみ拾いや除草、そして落葉の除去作業と奉仕活動を行っていただいているところでござ

います。

長井マラソンや高校駅伝開催前など、建設課でも随時職員による回収作業を行いまして、道路維持の安全確保に努めているところでございます。街路樹が植栽後40年ほど経過いたしまして、高木となり、落ち葉の量が非常に多くなってございまして、道路パトロールを重点的に行いまして、状況を把握し、落ち葉を路側帯に集め、迅速な回収に努めているところでございます。また、今後も交通に支障のないように街路樹を維持するために、枝葉等の状況について十分な点検と確認を行うとともに、専門の造園業者にアドバイスをいただきながら、定期的に支障となる枝の剪定等を行いまして、適切な街路樹の維持管理に努めてまいりたいと考えてございます。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 それぞれの項目についてご答弁いただきました。

最初に、順序逆になりますが、長井マラソン関係について再度質問させていただきます。

先ほど市長のほうから国の交付税等いろんなメニューを探して、スポーツ振興等の経費も含めてというお話でありました。ほかから助成金を頂いてくるというのはすごくいいことだと思います。それは、その方向で進めていただきたいんですが、もう一つ、市長からもありましたように、心のまちづくり基金等を活用する、青少年のためにという、それは私も大賛成です。

例えばですが、ふるさと納税いただいた中で、市長の裁量でできるものとか、いろんな項目があるわけなのですが、その中、この項目を使いながら、心のまちづくり基金のほうにある程度目的的な名目で積んでおくとか、そしてその子供たちが夏休み、冬休みを使って体験交流できるような場合に、そこから助成するなど、そういった方法もあると思うんですが、その辺については市長、どうお考えでしょうか。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 金子議員おっしゃるとおり、やっぱりふるさと納税をうまく活用するということがこれから非常に重要になると思っております。現在までは、特にこの公共施設整備等々、平成の時代にできなかったところを今頑張ってやっていますので、できるだけそのしわ寄せを次の世代が負うことのないように、何とかできるだけ早く完結し、なおかつ財政状況を健全化し続けるということを優先的にふるさと納税を充ててきたという経緯はございます。

今年は今のところ比較的順調でございますので、昨年はかなり頑張りましたが、一昨年、そのさらに前の年が2年連続で様々な事情によりかなり減りましたので、そんなことでそこまでの余裕があるかどうか、今までは厳しかったんですが、今後やはりそういった財源を1,000万円でも2,000万円でも積み立てられれば相当程度、子供たちができるだけ若いときに海外の人たちと触れ合う、あるいは外国に行っているような国々の習慣とか、人々と触れ合うということの体験をさせたいと思っておりますので、ぜひ来年度以降、検討してまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 ぜひそのように進めていただければとお願いしたいと思います。スポーツだけでなく、昨日のピアノの話題ではないんですが、文化面も含めて様々な分野でそういう体験が子供たちができるような環境整備に努めていただきたいと思います。

次に、ミニデイサービスの関係であります、先ほど市長のほうからバス等を各コミュニティセンターに配置するという考えをいただきました。ぜひそういうふうなコミュニティセンターに自由に使える交通手段を準備していただければありがたいなと思ってます。前に各コミュニティセンターに軽乗用車などを配置してというような話も出た時期もあったわけですが、

現在は職員の車で対応しているような状況ですけども、やはり高齢者の場合はそういった足がないとか、移動手段がない。中央さ行くよりもやっぱりコミュニティセンター、そういった環境のほうがより集まりやすいということがあるかと思えます。

コミュニティセンターの職員がいろいろアイデア出しながらという、あと専門部の方々がアイデアを出すという、そういった取組が必要だと先ほども申し上げましたけども、そういった中で、職員が直接そういった作業をするのではなくて、地域の中でそういう適任者を見つけて進んでいく。それもコミュニティセンターの役割でないかなと思っています。全体的なそういった整備するにしても、コミュニティ協議会、今回できたわけですので、そこを中心に各地区といろいろ相談しながら、当局も間に入って進めていただければなと思っておりますが、その辺は市長、どうお考えですか。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 金子議員おっしゃるとおりです。やっぱり私も気をつけなければいけないのは、市のほうからこうしてください、ああしてくださいという、極力お願いはしないで、こういうこともできますよ、こういう場合はコミュニティセンターさんの判断で、例えば車を持つことができますと、ただしこういう条件がありますとか、そういったことをお話ししながら、やはりそれぞれの6地区のコミュニティセンターがあるわけですから、共通して全体で皆さん取り組もうということであれば、またいいわけですけども、ある地区では取り組んで、ある地区では別のことをやるということも当然あっていいわけですから、そこはあまり私ども市のほうでは、お願いはするとしても、無理やりに何としてもやってくださいみたいな、そういったことは一切考えておりません。

そういうふうにして、やっぱりあくまでも地

元の皆様の自主的なご判断、あとはその持って
おられるネットワークとか情報ってすごいわけ
ですから、担い手として、例えばこういう人な
んかにいろんなことをお願いしようとか、そう
いったことなどは我々行政よりもコミュニティ
センターの皆さん、よくご存じなので、そうい
ったことを中心に、コミュニティセンターの中
で運営の理事の皆さんともそうなんですけども、
やはりいろんな判断をしながら、できますれば
市の補助金だけじゃなくて、国とかの様々な制
度を活用し、なおかつコミュニティビジネスみ
たいな形で、これからは高額ではあってはいけ
ないんですけども、全て無料ですよというのは
なかなか難しいのかなと思っておりますので、
そういった視点からもいろいろ検討いただくと、
いろんな発想が生まれてくるのかなと思ってい
るところですので、ぜひ引き続き、私ども分か
らない部分たくさんありますので、ご提言とか、
様々なご意見、ご指導いただければと思います。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 コミュニティセンターの
職員の方と話をしてみますと、今のコミュニテ
ィ協議会の事務局の方々はずごく親切丁寧にい
ろんなお話をしてくれるということもお伺いし
ています。まだ4月にできたばかりの組織です
けども、私たちもこれから見守っていきますし、
市長のほうからもいろいろアドバイスなどいた
だきながら、よき方向に進むようお願いした
いと思います。

最後ですけども、今日資料として配付させて
いただきました、これはあやめ通りの写真です。
今月の13日前後に撮らせていただいたので、こ
れ全部同じような写真に見えますが、それぞれ
違う場所から撮った写真ですので、よろしくお
願いします。

ご覧のような状況でした。というのは、ちょ
うど先月に駅伝大会がありまして、ここはコー
スになっている。駅伝の前は、さっき建設参事

からありましたように、きれいにしていただい
たということだったんですが、その後、数週間
でこれぐらいの状態になった。民家の写真はこ
ういうふうに撮ってないんですが、民家のほう
にもかなり落ち葉が風で飛ばされているという
ような状況だったようです。この通りだけでは
ないんですが、先ほど市長の答弁からありまし
たように、沿道の方々とうまくやっていない
と駄目なんだというようなお話をお聞きしまし
たので、その辺、今後、今までもやってきたと
思いますが、沿道の方々とのコミュニケーション
を深めながら進めていただきたいと思います。

最後に、建設参事にお伺いしますが、春と秋、
2回剪定作業などを行っているということでは
けども、こういう部分の清掃関係については、
年間どれぐらいやっておられますか。

○浅野敏明議長 小林克人建設参事。

○小林克人建設参事 お答えいたします。

春と秋ということで、剪定ですけれども、そ
れぞれ市道あやめ公園線であったり、幸町高野
線であったりということで、年に10数回ほど3
業者と契約いたしまして、道路及び街路樹の維
持管理等契約ということではしているところご
ざいます。年間数百万円ほどかかっております。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 せっかく駅伝の前にきれ
いにしてその後こうなるという、これは自然災
害とまではいかないんですが、なかなかタイミ
ング的にも難しいなと思っています。適時状況
を見ながら、今後も回数を増やすなり、作業を
行ってくれるよう要望いたします。

私のほうからは以上で質問を終了させていた
だきます。

渡部正之議員の質問